

豊かな心の育成を意識した学校づくり

守谷市立守谷中学校

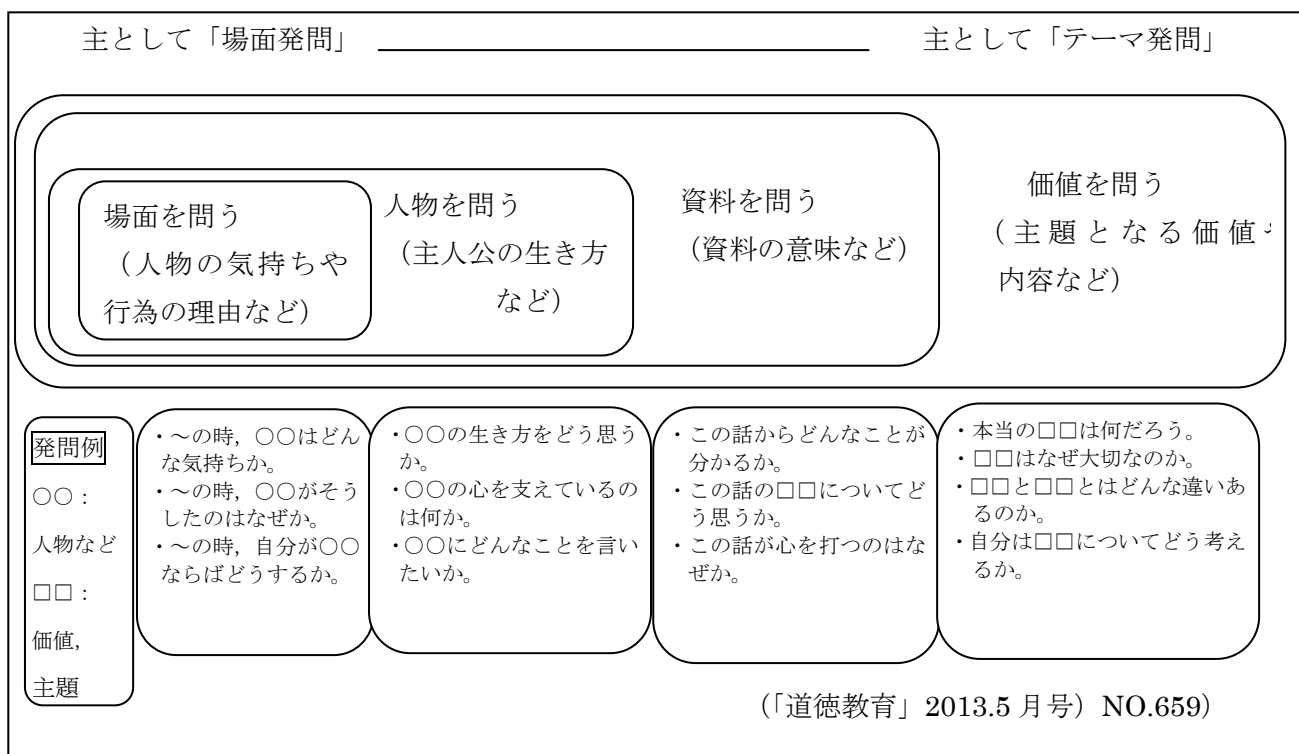
1 道徳の時間の充実

(1) テーマ発問の工夫

東京学芸大学教授永田繁雄氏は、テーマ発問について「資料の主題であるテーマそのものにかかわって、それを追求しようとする発問」と述べている。本校では、永田氏の先行研究を参考に、テーマ発問を「道徳的価値を自分とのかかわりでとらえる発問」と定義した。

テーマ発問を取り入れるよさは、テーマ発問によって、主題となる価値や内容について生徒自身の考えを自分の言葉で表現できることである。また、これまでの授業では、教師が主人公の気持ちを問い続けることによって、生徒は教師の問いを待ち続けるしかなかった。それに対して、テーマ発問によって、生徒が資料や体験から感じたことが問題意識となり、よりよく生きるために大切なことは何か、真剣に考えることができる。

【資料 テーマ発問の具体的な例】



「本当の思いやりとは何だろう?」「主人公といつもの自分を比べよう?」などのテーマ発問を取り入れることで、生徒は道徳的価値を自分とのかかわりで考え、自分の言葉で自分の考えを表現するように変容してきた。そして、よりよく生きるために大切なことは何か、真剣に考える姿が見られた。

(2) 話し合い活動の工夫

本校の話し合い活動で大切にしたのは、相手の意見を言い負かしたり、自分の意見を発表するだけに終始したりするのではなく、友達のことを手掛かりに自分の考えを広げたり深めたりしていくことであった。そして、重視したのは「①話し合いの目的の明確化 ②場の設定 ③意見の類型化の工夫」の3点であった。

写真のように、机を使わない場の設定を工夫することによって、生徒同士の距離が近くなり、身振り手振りを用いて意見を述べることができた。身近に発表者の気持ちを感じ取ることができ、受け身になりがちな生徒も進



【机を使わない場の設定】

んで発表していた。さらに、異なる意見に納得した場合は、もう一方へ移動させたので、生徒の考えの変容を目で見てとらえることができた。生徒の主体的な意見交換が期待でき、「反対意見を聞き、なるほどと思うことが多かった」と話す生徒もあり、考えを深めることができた。

環境教育

今年度の実践

(1) 園芸委員会の作業風景



【アサガオを使ったグリーンカーテンの作成】【夏季休業中の水やり当番】

【マリーゴールド植え】

園芸委員会以外にも、給食委員会が給食時にゴミの分別を呼びかけたり、福祉委員会はペットボトルキャップの回収を行ったりした。また、スマイル・アフリカプロジェクトとして、はかなくなった靴を集めて送る運動も行った。

(2) 成果

各委員会による働きにより、環境に対する本校生徒の関心は高い。園芸委員の活動として夏にはマリーゴールドやサルビア、ペコニアを植え、冬にはパンジーを植えた。季節に合った植物を植えることでより植物に目を向けられる機会を多くした。福祉委員や給食委員も積極的に活動した。キャップなどの回収を呼びかけるポスターを作成するなど、数多くの生徒に周知させた。環境フォトコンテストでは、1学年の生徒がジュニア部門で奨励賞を受賞した。

以上のように、来年度も継続して環境教育の推進を行い、広い視野をもち行動できる生徒の育成に努めていきたい。